

新材料／機能製品

昇温特性優れる新型ヒーター

# 一般産業向けにも展開

東芝セラミックス

金型加熱  
など 100億円事業に育成

東芝セラミックスは、高純度カーボンワイヤーの発熱体を石英ガラスで封止した新型ヒーターの用途開拓を加速する。優れた熱特性と自由な形状設計を活用して、従来の半導体向けに加えて金型加熱用途など一般産業分野での拡販を推進する。数秒で目的温度（瞬間最高温度・一千百度℃）に達する昇温特性は「ヒーターではなく、電球と比較される」（同社）ほどインパクトがあることから、同社では二〇一〇年を目標に同ヒーターを百億円事業に育成する方針。

新型ヒーター「QCH HEATER」は東京エレクトロンとの共同開発によって〇二年に製品化した。従来の金属ヒーターは加熱すると電気抵抗が上昇するため急速昇降温に限界があるのに対し、新型ヒーターは温度上昇にともなって電気抵



発熱部はスパイラル型（写真）など多様な形状設計を実現